

# はだしのゲン 全10巻(単行本)



[はだしのゲン 全10巻\(単行本\) 下载链接1](#)

著者:中沢 啓治

出版者:汐文社

出版时间:1993/04

装帧:平装

isbn:9784811304007

『はだしのゲン』(Barefoot Gen)は、中沢啓治による、自身の原爆の被爆体験を元にした漫画。同タイトルで実写映画やアニメ映画化もされている。2007年には初めてテレビドラマ化された。戦中戦後の激動の時代を必死に生き抜こうとする主人公のたくましい姿が描かれている。

作品の内容、表現等について様々な意見があるが、作者の実体験に基づく原爆の惨禍や当時の時代背景・世相風俗を表現していながら、教育的なだけではなくエンターテインメントとしても魅せる作品として国内外での評価は高く、映画・ドラマ・アニメ・ミュージカル・絵本化もされている。

自伝的な作品で、作中のエピソードの多くも中沢が実際に体験したことである。しかし当然ながら、実際の体験と作中のエピソードには差異がある。例えば原爆投下直後の父や姉、弟の死を中沢自身は直接には見ていないこと（後に実際に立ち会った母から聞かされている）や母親の死に中沢は立ち会っていなかったこと（作中の戦後すぐの死去ではなく終戦から20年後で、中沢は当時東京にいた）などである。作中にもある母親を火葬した際、骨が残らなかったエピソードが、中沢に広島原爆の被爆を題材とした漫画を描かせるきっかけとなった。テーマから戦争風刺漫画であるようにとらえる向きもあるようだが、むしろ全編が「怒り」に満ちていると言える。また単なる反戦漫画の範疇を超えた作品であるとの見方もある。

発表分末期は終戦から何年も過ぎ（警察予備隊、後の自衛隊発足に対する批判の話もある）、被爆漫画でなく戦後漫画になっている。

単行本、文庫本などを含めた累計発行部数は1000万部を超える。教育の現場で広く読まれていた日教組の機関紙に連載されていたこともあって、単行本が小学校などによく置かれていた。そのため、少年時代に学校で読んだという読者が発行部数以上に多くいる。

2007年5月30日からウィーンで開催された核拡散防止条約（NPT）運用検討会議の第1回準備委員会で、日本政府代表団は、本作の英訳版を加盟国に配布することになった。これは、漫画好きでも知られる麻生太郎外務大臣（当時）の肝煎りで実現したもの。外務省が英語版30冊を出版社から譲り受け、今後も「漫画外交」を活発に展開させる予定（時事通信、2007年4月29日）。

作者介绍:

中沢 啓治（なかざわ けいじ、本名同じ。1939年3月14日 - ）は、日本の漫画家。広島県広島市舟入本町（現在の広島市中区舟入本町）出身。現在は埼玉県所沢市に在住。

自身の被爆体験を元にした代表作『はだしのゲン』等で戦争、特に原子爆弾を取り上げている。

1945年8月6日、国民学校1年生だった時に広島で被爆。自身は建物の塀の影に入って熱線を浴びずに奇跡的に助かるが（『はだしのゲン』の原爆投下時のエピソードとほぼ同じである）、父、姉、弟を失った。父は日本画家だった。

長田新が被爆児童の手記を集めて1951年に刊行した『原爆の子』の「序」に中沢の手記の一部が引用される形で掲載されている。

終戦後、手塚治虫の『新宝島』を読んで感動し、漫画家になることを決意。その後、漫画の投稿を何度も行い、中学卒業後に看板屋で数年勤めた後、1961年に上京。2年後の1963年（自伝「おれは見た」では半年後という事になっているが、どちらが正しいかは不明）、『スパーク1』（『少年画報』）でデビュー。

上京当初は周囲の原爆被爆者に対する差別の視線から、自らが被爆した過去を語りたがらず、専ら少年向け漫画誌に原爆とは無縁の漫画を描いていた。転機となったのは1967年の母の死で、初めて原爆を題材とした漫画『黒い雨にうたれて』を描き始めるが、最初はどこの出版社からも掲載を断られ、描き上げてから2年の時を経ての公開となった。

目録:

[はだしのゲン 全10巻\(单行本\) 下载链接1](#)

标签

中沢啓治

漫画

日本漫画

原爆

赤足小子

日本

日文原版

日文原文

评论

这部有人汉化过吗？

-----  
正如老师所说，这套书光是摆在家里就够可怕了。

-----  
[はだしのゲン 全10巻\(单行本\) 下载链接1](#)

# 书评

-----  
[はだしのゲン 全10巻\(单行本\) 下载链接1](#)